## 政策コメンテーター報告(第2回、意見照会期間:2014年9月24日~10月6日) 佐々木 かをり:株式会社イー・ウーマン代表取締役社長

質問事項		選択式 回答	記述式回答
経済動向			
1-1	現在の経済状況について、関連する業界、地域等の現状やご自身の知見・経験等を踏まえ、3か月前(6月下旬から7月上旬)と比べて良くなっているか、悪くなっているか選んでいただき、その理由をデータや具体的な事例とともに300字以内でご記入ください。その際、前年との違い等お気づきの点があれば併せてご記入下さい。		この期間も周囲の企業、タクシー運転手等にヒアリングを続けましたが、アベノミクス効果を感じているという人は一人も会っていません。
1-2	今後の経済のリスク要因(第1回時点と比較して変化がある場合)、あるいは将来への新たな期待要因について、300字以内でご記入ください。	_	
経済再生と両立する財政健全化			
2	財政健全化に向け、歳出削減等を始めとして様々な取組が考えられますが、具体的取組内容についてのお考えを300字以内でご記入ください。	_	

## 政策コメンテーター報告(第2回、意見照会期間:2014年9月24日~10月6日) 佐々木 かをり:株式会社イー・ウーマン代表取締役社長

質問事項		選択式 回答	記述式回答
女性の働き方に中立的な税制・社会 保障制度等の在り方			
3-1	どのように女性の働き方に中立的な社会制度を実現していくべきとお考えか、その理由とともに300字以内でご記入ください。	-	「女性の働き方に中立的な制度」とは、今論じられている税制、社会保障、配偶者控除に加え、世帯主に向けての公共サービス、子ども手当の支給など多方面から点検の必要があります。また、夫婦別姓、男性の労働時間も関係する重要な課題です。家族皆がともに過ごす家庭生活を豊かにし、妻の経済的自立があれば、出生率が向上します。最終的には「女性の働き方に中立的」な道をつくるということは、既存と比較してなり大きな違いを出し、多様な選択肢を与えるという考え方が重要。そして、「女性の働き方」に注目せず、「女性と男性が同じように働ける選択肢」を広げることが大切だと考えます。各自が自由に選択できるようにと願います。
3-2	女性の働き方に中立的な制度を論じるに当たって、その背景にある事項(女性が働くことへの人々の意識や職場慣行、男性の働き方、子育て支援等の環境整備、家族のあり方等)について、特に言及すべきことがありましたら300字以内でご記入ください。	_	「女性の働き方に中立的」な道をつくるという考え方、表現が、すでに適切でないと感じます。「女性の働き方」ばかりに注目した政策やもうやめ、「女性と男性が同じように働いたり生活できる選択肢」を広げる政策が大切だと考えます。女性の就業率が高い国、都市の方が出生率が高いことをもっと広く知らしめること。男性の労働時間を短くすること。家族での時間についての教育や体験を増やすことなど、総合的ビジョンを明確にして政策を作る必要があると思います。その上で、各自が自由に選択して大丈夫という文化形成もしていきたいです。